「人」を基本に据えた町づくり

3月定例町議会冒頭において、相川町長は「人」を基本に据え、「お年寄に安らぎを、青年には確かな希望を、子どもたちには大きな夢を持ってもらえるような町作り」の推進を図る平成12年度の施政方針を述べました。

人と自然が共生できる町づくり

環境破壊の原因は、無秩序な経済優先の考え方にあると思いますが、誰もが気づかずに過ごしてきました。その結果、自然の浄化力を上回った為に、大気や水の汚染、フロンによるオゾン層の破壊、二酸化炭素の増加による地球温暖化、自然界に存在しないダイオキシン、環境ホルモンなど深刻な問題が起きてきました。

環境問題は、一人一人が、日常生活のなかで考えなければならない問題で、自分たちの生活が、いろいろな形で自然界に影響を及ぼしていることをまず認識し、リサイクルの推進、産業廃棄物の不法埋め立て防止など、すばらしい自然を守り未来につないでいくことを行政も深く認識していきたいと思います。

福祉と介護保険の充実した町づくり

福祉は、行政も民間も、みんなが一体となって、自分たちの住む町を、心豊かで、明るく住みよい町にすることだと思います。

一人一人が生きがいを見つけ易い環境を作っていくことが大切だと思っております。

また、平成27年には国民の4人に1人が65歳以上と予測されており、芝山町においても、平成10年には、高齢化率が20%を超えております。介護される人、介護する人の高齢化も一段と進むなかで、介護の問題が老後の不安要因になっております。

このようななかで、介護保険制度が、4月1日から始まりますが、社会全体で介護を必要とする人を支える仕組みであり、今後不都合な点は前向きに直し、制度を更に充実したものにしていきたいと思います。

（2000年の職員の抱負：抜粋）

空港と共に生きる町づくり

空港は、地域の経済や発展に大きく寄与しており、空港周辺に大きな影響を与えております。

騒音等のマイナスの面を少しでも減らし、空港が地域を支え、地域が空港を支えるという、空港と共に生きる町づくりを皆さんと共に築き上げていきたいと思います。

2002年の平行滑走路の完成と併せて、国内線の充実も要望していきたいと思います。

芝山鉄道を核とした町づくり

芝山鉄道は、空港南側の地域交通の根幹であり、地域振興の核です。

昨年3月に駅舎、橋脚の部分が完成し、現在は、外周から中にかけての工事、トンネル工事にはいっています。

しかし、計画路線には1坪共有地があり、解消の努力をしながら迂回してでも開通を早めていただくよう要望しております。

2002年の完成を目途に取り組んでいきたいと思います。

また、鉄道の延伸を要望しながら、それに先駆けて、4町村（芝山・松尾・蓮沼・横芝）において空港と海を結ぶ高速定期バス路線新設の提案がありますので、地域の皆さんの期待に答えていきたいと思います。

農業や観光を推進する町づくり

岩山地区に予定されている、多機能型農業公園（事業主体・県）は全体面積60ha、平成12、3年度に基本設計と実施設計が開始され、13年度中に造成工事、16年度に一部オープンする予定です。

全国第2位の農業県である千葉県は蔬菜園芸では全国第1位であり、特に芝山町を含めた北総台地の農業は県内でも大きなウエイトを占めております。

そこで、農業を支える後継者や人材の育成、技術指導、環境問題を取り入れた農業等々、農的価値を見据えた農業形態を考えると、芝山町の農業に充分寄与すると考えられます。

また、周辺の観光地とリンクする事も充分考えられます。

この他、12年度は、空港周辺の道路整備、農業集落排水事業、公共下水道事業などが計画されております。